

平成19年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		家庭教育						整理番号	778		枝番号			
担当部課名		社会教育スポーツ課		コード	601616		連絡先電話番号	4712		昨年度整理番号	785		昨年度枝番号	
係名		社会教育センター						上位施策名		No				
予算事業名		生涯学習の推進		コード	81000		家庭における教育力の向上		61					
事務事業の概要	事業開始年度		○昭和 ●平成		14年度		<input type="checkbox"/> 実施計画事業 分野 <input type="checkbox"/> 政策番号 <input type="checkbox"/> 施策番号 <input type="checkbox"/> 事業コード							
	事業の種類		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理				<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 協働計画事業							
	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他		子どもの成長や育つ環境に関心のある団体・グループ 区内在住・在学・在勤者		根拠法令等 (1) 社会教育法第5条第1・6項 (2) 家庭学級共催分担金支給要綱 (3)							
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		親が子育てや家庭、地域社会等において直面する様々な課題を取り上げ、同じ関心を持つ人々が継続的に学び合える場を、各地域団体と共催してつくる。また、成果や課題を共有する。子育て団体と協働し、子どもの発達に合わせて様々な情報を				事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 問題意識を持つ団体・グループが、親の学習の場として地域に呼びかけ、同じ関心を持つ人々とその課題について話し合う場をつくることで、相談したり支え合うことができる親同士の身近な関係づくりを行う。子どもの発達に合わせた情報を提供することで、子育てに役立ててもらう。							
	活動指標名(式)		(1) 開催講座数 (2) 発行部数				成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 (1) 開催講座率 = 開催講座数 ÷ 40講座 (目標数) (2)							
指標	区分		単位	16年度実績	17年度		18年度		19年度計画	目標値22年度	目標値に対する18年度の達成率%			
	活動指標(1)		講座	13	40	16	40	22	44	44	50.0			
	活動指標(2)		部数	3,200	2,600	6,000	4,700	5,000	4,700	0				
	成果指標(1)		%	37	100	40	100	55	100	100	55.0			
総事業費・コスト把握	事業費		千円	1,533	2,890	1,610	3,127	2,586	3,586	特記事項 (指標、事業費等の変化の理由など) * 成果指標(1)については、15年度までは「参加者延べ人数 ÷ 開催回数」で計算。講座開催に取り組む団体数の増加によって、学習機会が広がり家庭の教育力の向上になるとして、成果指標名(式)を変更。16年度までは「開催目標数は35講座」				
	(内) 投資的経費等		千円											
	(内) 委託費		千円	499	500	499	500	499	500					
	職員数(常勤 非常勤)		人	0.90 0.33	0.90 0.33	0.96 0.30	1.00 0.00	0.80 0.00	0.60 0.10					
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)		千円	8,190	8,154	8,698	9,060	7,248	5,436				
		非常勤職員分		千円	950	954	867	0	0	283				
	総事業費 + +		千円	10,673	11,998	11,175	12,187	9,834	9,305					
	単位あたりコスト(-) ÷		円	821,000	299,950	698,438	304,675	447,000	211,477					
	財源	受益者負担分		千円										
		国・都等からの支出金		千円										
特定財源計 +		千円	0	0	0	0	0	0						
差引: 一般財源 -		千円	10,673	11,998	11,175	12,187	9,834	9,305						
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
18年度の主な取組み		内 容						規模	単位	事業費(千円)				
		家庭学級講演会等の開催						22	講座	2,022				
		子育て事例集の発行						5,000	部	499				
		家庭教育フォーラム						1	回	65				
		その他 ()								0				

平成19年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 778 枝番号

18年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)		活動指標(1)の 18年度達成率%	55.0	活動指標(2)の 18年度達成率%	106.4	18年度予算 執行率%	82.7
		17年度と比べて開催団体数は増えたが、まだ「家庭学級」という事業の周知が不十分で定着しておらず、申請が少ない。					
前年度の改革案の取り組み状況 (19年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)		広報面での工夫によって周知を図り、それぞれに応じた支援を行うことで、様々な団体が活動を展開できるようにする。また、これまでの成果や団体とのネットワークを活かし、子育て支援関連部署とも連携しながら、親が学ぶ機会や場の充実とそれを支える人材育成を図るため、国の「家庭教育支援総合推進事業」に取り組む。19年度については「子ども読書活動推進計画」に基づき、「短期コース」のうち、「読書活動」をテーマにした取り組みについては分担金を通常3万円のところ5万円支給する。					
事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	家庭の教育力の低下や社会教育法の改正を背景に、「家庭教育学級」を廃止して14年度より開始。家庭教育の充実は、国や都を含め課題となっている。					
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待 ・要望・苦情など)	相談から申請までの流れや日程(いつまでに申請すれば良いのか)が分かりづらいとの声があった。また、制度を知らなかったため、開催後に相談があったり、申請はしたが周知が不十分なのか受講希望者が集まらず実施に至らなかったケースもある。家庭教育フォーラムについては概ね好評を得た。					
	今後の予測	国や都においても家庭の教育力の向上は重要な課題とされており、今後ますます親の学習機会の提供が必要となってくる。					
事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいのか 貢献度 大(理由)	理由:様々な団体を掘り起こし、その活動を支援するとともに、親等の自主的な学習の場をつくることで、家庭や地域の教育力を高める教育機会として地域づくりの基盤につながっている。					
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか できる(^) 成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容)	理由または具体的内容: 理由または具体的内容:様々なPRの仕方を取り、より効果的な周知方法を検討し実施していく。また、国の補助事業等を活用しながら、埋もれている子育てサークル等の掘り起こしや父親の参加の機会を拡大することで成果をあげることができる。					
	(3) 受益者負担の見直し余地は ある(具体的内容)	理由または具体的内容:自主的に学習活動の土台づくりを進めるためにも実施主体側の負担や参加者の実費負担を見直し余地はある。					
	(4) コストを下げる余地はあるか ある[その他](具体的内容)	理由または具体的内容:家庭教育支援の必要性はますます高まってきており、徐々に団体等に活用されつつあるが、現時点ではまだ自主的な活動が不十分であるため、共催事業としての分担金の支援は引き続き必要である。ただし、子育て事例集については、子育て支援課の「すぎなみ子育てサイト」の立ち上げに伴い、平成19年度の編集をもって終了とする。					
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している(^)	協働等の今後のあり方:		<input checked="" type="radio"/> 実施継続 <input type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄			
	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体(^)	協働等による成果と課題 家庭学級は申請のあった団体と共催し、事業に取り組む。行政は相談・助言、会場提供、広報PR、経費の一部負担等を行い、団体側が企画・準備や当日の運営に当る。					
	(3) 協働等の形態 協働[その他](具体的内容)	冊子の発行は、内容を団体と協議して決め、取材・編集を団体が、印刷・配布を行政が担う。					

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input checked="" type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) 事業のあり方点検欄を踏まえて記入 豊かな家庭や地域づくりをすすめていくには大人の学習が欠かせないため、子育てや地域の諸問題に関心を持つ地域の大人たちが互いに学びあう機会や場をつくるのが重要である。団体や子育て支援関連部署等と連携し、国等の施策を活用しながら、父親や若者等の参加も含めた仕組みづくりを行う必要がある。 子育て事例集については19年度編集のVol.6をもって終了とする予定である。	
	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 仕組みづくりにおいては、家庭教育や子育て支援に関係する団体等と協議していくことが大切である。「家庭教育フォーラム」や「おやじネットワーク杉並」等、これまでの繋がりを手がかりにしながら、新たな地域団体等を掘り起こし、本事業のPRを積極的に行っていく。	
20年度方針	(1) 20年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 増減な <input checked="" type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
	(2) 理由	杉並区教育ビジョン推進計画でもあげているとおり、19年度の目標講座数を継続する。 子育て事例集については19年度編集のVol.6をもって終了とする予定である。